

岩手県野田村の支援活動報告 (2011年4月25日)

山口恵子 (人文学部)

野田村での直接の支援活動も3回目となりました。2011年4月25日月曜日、天気はくもりで、午後から雨の予報が出ている中、出発しました。この日の参加者は、学生25名、教員3名、一般10名の計38名でした。初参加の学生が、3分の1ほどはあったようです。

今回の活動の一つは、個人のお宅での作業でした。庭の池や蔵の中、側溝などにたまった土砂を外に出す作業と、庭中に散らばるごみや枯れ枝を除く掃除などを行いました。泥出しは相当の力仕事です。私もくわを持って側溝の泥出しをやろうと試みましたが、重いだけでなく、コンクリート片などが邪魔をして、全く掘り進めることができませんでした。たくましくも学生たちは顔を真っ赤にしながら、くわをふるっていました。

また、庭では、丁寧に整えられていたであろう立派な庭木に、土砂とゴミと枯れ枝がまとわりついていました。地面にはそうしたものに加えて、驚くほどのガラス片が、泥に半分埋まってキラキラしていました。これらを取り除いてビニール袋などに入れて庭の外に出して行きました。一人の女子学生いわく「ゴーグルを持ってきた方がいいと言われていたけど、何に使うの?」と思っていましたが、ほんとにゴーグルが要りますね!。作業中の粉じんが目がショボショボするので。



側溝の泥上げ。瓦やコンクリート片等が行く手を阻む。



庭で枯れ枝やごみを拾う。

別のグループは、野田村役場の駐車場の脇にある大きな倉庫の瓦礫撤去や泥出しを行いました。この倉庫には、村の水道工事用の水道メーターが置かれていたらしく、それを探しながらの作業でした。巨大な空間なので重機を入れることもできるのですが、そうしたこともあり、あえて手作業で作業を進めます。床をきれいにした後、無事に膨大な数の水道メーターが発見されました。この水道メーターは、これからの復興に向けて、すぐに利用されることでしょう。

またもうひとつ、このグループでは貴重なものを発掘しました。それは「のだ砂まつり」のパネルです。切り立った断崖の多い三陸海岸でも貴重な砂浜である十府ヶ浦（とふがうら）において、毎年夏に行われていたお祭りでした。美しい砂浜と、こんもりと長く伸びる松林、そ

して祭りを楽しむ人々の姿が映っています。パネルは、すぐに村役場の前に広げられていました。この美しい風景を早く復活させたい、そう強く私たちに思わせるものでした。



倉庫の中で瓦礫撤去、泥出しを行う。



発掘された「のだ砂まつり」のパネル。

今回は、うれしい再会もありました。二回目の活動のときに、個人のお宅の庭をきれいに片づけたことが、陸奥新報の新聞記事になっていました。その記事を持って、その方の自宅を訪問したところ、オーナーの女性が、私たちが再び訪れたことをたいへん喜んでくださいました。学生も、ご本人はもちろん、飼い犬の名前を呼んでかわいがるなど、少しずつ地元の方と知り合えていくのがうれしそうでした。

一方で、今回は少し早めに作業を終えたので、海岸線の様子を視察しました。「以前は松林があったので、役場から海は見えなかったそうです」などの事務局の李さんの話に、みな茫然としていました。瓦礫と化した防波堤、なぎ倒されてまばらな松林、ねじ曲がって赤茶けた鉄道のレール、今回の災害の大きさをあらためてつきつけられたように思います。

徐々にセンター事務局の活動を学生たちが担うようになっており、今回も日野口さんと堀さんの二人が、準備から当日の参加者の点呼、往復のバスの中の司会も含めて、大活躍でした。野田村の復興も私たちの活動も、少しずつ前に進んでいる、そう実感できた今回の活動でした。



初めて海岸近くを視察。言葉を失う。



今回の活動に参加したメンバー。